

京都府:グループホームひだまり1階・2008年度
 地域密着型サービス評価の自己評価票

(部分は外部評価との共通評価項目です)

↑
 取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<input type="checkbox"/> 地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	<input type="checkbox"/> 『笑顔あふれる、もう一つの我が家』(安心して共同生活できる場を求めて)のパンフレットを作った。	<input type="checkbox"/> その人の強みとされる部分に働きかけ、その人らしきモットーに、安心して暮らして頂ける「私の家」を目指したい。ホームの理念は職員と利用者さん・家族様のみんなで作り上げたい。
2	<input type="checkbox"/> 理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 呼称は、入居者様もスタッフもお互い苗字でさん付けする。	<input type="checkbox"/> 地域への発信元となれる活動を市と共に考えて行きたい。
3	<input type="checkbox"/> 家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	<input type="checkbox"/> 家族会や推進会議で出来るだけ話している。	<input type="checkbox"/> 地域の方達にもっと理解をして頂ける様勉強的なことが出来ればいい。
2. 地域との支えあい			
4	<input type="checkbox"/> 隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	<input type="checkbox"/> 朝、夕の散歩時には必ず挨拶をしている。	<input type="checkbox"/> 挨拶をしっかり行ない、世間話や日常的な会話の中から信頼を深めて行く。
5	<input type="checkbox"/> 地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	<input type="checkbox"/> 買い物・散髪に出かける	<input type="checkbox"/> 食料品以外に生活面維持向上の為に、消耗品等、月に1回程度購入の機会を設ける。市の年間行事等を確認して参加し易い内容について、希望者で無理のない程度で参加する。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	○民生委員との連携で独居の方への訪問・地域への広報活動(中学生などへのはたらきかけ)	○	○地域への発信元となれる活動を市と共に考えていきたい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	○パートも含む全スタッフが100項目の自己評価に取り組んでおり、現実の認識と近い将来の夢を共有したい。	○	○自己評価に取り組む事で、いろんな気づきを確認出来、活動の意識向上に生かして行きたい。
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	○運営推進会議に利用者代表に交代で出ている。	○	○薬に関する勉強会や、本を購入する等、今よりもっと、薬の大切さや重要性に対する意識を高めていく。また、服薬確認を徹底して行ない飲み忘れの無い様に支援する。
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	○市の民生委員が見学のときは、認知症やグループホームについて理解を図るために説明している。	○	○古川校区社協会長に地域の独居高齢者との交流の場が出来ないか相談に行く
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	○現在2名の方が4親等以内の親族がなく、後見人選任の手続きを取っておられ手伝っている。	○	○今後もお手伝いをしていきたい。
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	○事業所内で言葉の拘束が起きないよう、またベッド柵など虐待とならないよう充分注意している。	○	○研修等で得た情報を勉強会などで伝えていきたい。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	○入居者の年金と預金と子供全員が連帯保証人になって負担される心温まる契約がまとまった。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○利用者さまが食べたいメニューを言うていただいている。	○	○苦情や希望を会話の中から感じ取り、集約、苦情解決委員(外部者含)の設置により、速やかに解決をして行く。 ○利用者様の食に関する事が、昔の話の中に織り込まれており、聞き取っている。
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	○全体に家族の面会が多いが、少ない家族様にもその都度お話ししている。	○	○面会時には、最近の状況を伝える。 ○定期的に新聞を発行して苦情などの報告もしていきたい。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	○その都度、事務連絡又はノートにて連絡をするようにしている。	○	○今後、家族様からの意見を職員の共通認識にして行ける様ケアカンファレンスを持ちたい。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	S)出来るだけミーティングなどで話し合う。		苦情受付箱を設置する。 MK 意見を出し合うミーティングを持つために月2回は行いたい。
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	○受診など不規則な場合を除き出来るだけ調整している。	○	○個々にあうゆっくりとしたリズムの一日を過ごしていただくよう心がける
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	○出来る限り、同じ人が馴染みの関係を作り接している。	○	○職員の異動など職場がじっくり育つよう上司にお願いしていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	○ミーティング等で話を聞き意欲的になっていただける様指導している。	○職員的能力に合った研修を薦めることで一人一人の意識向上に繋げる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	○開設に際して管理者は京都府内のグループホームやデイサービスをいくつか見学している。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	○ミーティングなどで、出来る限り悩みなど聞いている。	○この半年間、一気に突っ走ってきたが、今後はお互いいうことはいい、することはする話合いの運営に切り替えたい。 ○ミーティングや、ケアカンファレンスなどを定期的に行ない意見交換の場を作っていく事により、今よりも働きやすい環境に変わっていくのではないかなと思う。
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	○働きやすい職場を目指し、長く働けるように支援していきたい。	○目くばり、気くばり、心くばりを心がけているが仕事の量が多く、思うように動けない。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○担当制を立ち上げた。	○担任職員として、より信頼関係を築き、安心をして生活が出来るようにする。 ○利用者様が職員の手があくのを待っておられる。気遣いをされている。
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	○家族様が何時来られても対応できるよう心がけ、悩み相談は心行くまで話を聞いている。	○御家族が、何時来られても良い様に、利用者の整容、或は、周辺の整理、整頓に努める。御家族が、居室掃除等行なわれるのは良いと思うが、行き届いていないと感じられないように日々、行なう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	○自宅や入院中の病院を訪問して、本人との面接に最重点をおいている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	○体験入所制度をテストケースとして始めており、実施に向けて検討していく。	○	○体験入所用の居室を確保し、雰囲気を確認してもらい、一部屋を緊急時などに利用していただけるようにしていきたい。
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	○利用者さまを支援するだけでなく指導していただく関係も築く。 ○お茶の師範である入居者に、スタッフを含め希望者で、御点前の指導を受け始めている。	○	○隣接の中学の生徒達が立寄って定期テストに向けての復習をしてくれるような場を作りたい。 ○人生の先輩であることを念頭に、又、御利用を頂いている御客様としてサービスに努める。
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	○家族様の「外出させない、鍵を掛けて欲しい」などの思いに専門家として支援する。	○	○外出も出来ないと思われないように定期外出計画を行ない開放感に満ちた生活を送って頂く。
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	○出来る限り本人様が望まれる事を援助している。	○	○施設へ来られたときは、出来るだけ本人の情報をお伝えする。
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	○利用者さまの友人や行きつけの美容院など、希望されるところにできるだけ一緒に行っている。	○	○暑中見舞いや、年賀状等を作成し、御友人に郵送する。(行事等参加時の写真をいれる)
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	○何事にもみんなで一緒にという事を心がけ、公平に接していく事。 ○支えあっておられることを強く感じる。	○	○言葉の言い方の強さが問題になることがある。 ○利用者様同士、時々喧嘩のような言葉使いになるが、幸いすぐ忘れられている。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	○利用者さまが入院されて、有志で面会や食事介助などで出来る限り逢いに行くようにしている。	○	○定期的に面会に行く。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	○ご自宅での生活の状況把握に努める。 ○居室には衛生的で安全であれば、ご本人が最も落ち着けるよう、身の回り品を持込んでいただいている。	○	○自分の置かれている現状をよく理解されているが、がまんされている事も多い。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	○申込時に、家族とケアマネージャーから報告書を出していただいている。	○	○かつての本職がそのまま生かせる取り組みを一人ひとり作っていきたい。
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	○担当制を立ち上げ現状を総合的に把握するように努めている。	○	○何かやりがいになるような事をみつけ、日々満足感が得られればと思う。
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	○利用者さまの趣味などに働きかける。	○	○昔出来た事が出来なくなっている趣味、自分でもどうしたらと困られている事が多い。ちょっとしたアドバイスで笑顔になっていただきたい。
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	○出来る限り本人様が望まれる事を援助している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	○申し送りノートを活用している。	○	○気づき多し、情報共有に努力している。
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	○特養の看護師に管理者や職員が相談している。	○	○共同生活が困難になられた時は、最も適したサービスに切り替えるよう、法人内の事業所の協力を得るようにしている。
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	○ボランティアの方と入居者の方が、趣味の時間を共有される場となるよう、楽しく継続されるものとしていきたい。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	○法人内の特養・デイサービスなどのケアマネージャーや相談員と話し合っている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	○虐待の相談などしていく。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	○かかりつけ医から適切な医療が受けられるよう支援している。	○	○受診を出来るだけケアマネが同行できるよう工夫したい。

京都府:グループホームひだまり1階・2008年度

	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>○認知症専門医との連携をとっていきたい。</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>○法人内の特養の看護師などとの連携をみつにとる。</p>	○	<p>○常に学んでいる。</p>
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>○入退院に際し、管理者・ケアマネジャーで病院関係者と相談し、入院中は食事介助に伺うなど情報交換と連携に努めている。</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>○管理者は特養での経験を踏まえ、最期までお世話したいという思いが強い。</p>	○	<p>○終末期の対応を明文化していきたい。</p>
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>○まだ取り組めていない。</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>○住み替え時のダメージを防ぐよう心がける。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	○居室は施錠できるようになっていて、鍵を掛けている利用者もある。	○ <input type="radio"/> 信頼関係は、互いの会話から始まり、御客様であり、人生の先輩という意識を常に持ち、関わって行きたい。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	○運営推進会議に当番制で利用者代表に出てもらっている。	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	○一応の日課はあるが、起床や就寝は利用者の自由である。	○ <input type="radio"/> 利用者さまのその日の体調や気分を大切に個人個人にあった接し方やケアをしていきたい。
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	○協力美容院に、数人で出かけてもらっている。	○ <input type="radio"/> 身嗜みは、人として当然の行為で、それで表情も変わり、他人からの見方も違ってくると思うので重要と思う。
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	○毎日三食を、メニューを考え、買物に行き、調理して一緒に食べ、後かたづけをする、これを一日の生活の流れの基本にしている。入居者の中には仕出しの経験者もあり、いろんな形で参画されている。	○ <input type="radio"/> 特に昼、夕食準備については、時間に余裕が有り、利用者に関わって頂くことが出来ると思う。出来るだけ多くの工程に関わってもらえるようにと思う。 ○入浴の際出来るだけ利用者さまのお好みをお聞きして衣服を選び用意する。
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのもを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	○いやなものは食べなくても構わない。	○ <input type="radio"/> 買い物希望された場合行けるように調整をする。 ○飲み物などは食事時、おやつ時はもちろんの事、それ以外にもなるべく水分補給していただくようにお声をかけお茶など飲んでもらう。

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	○出来るだけトイレで・・・を大事にしたい。	○	○個々のパターンを観察し、絶対失敗がないという意識を持って関わりたい。
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	○入浴は週2回を目標としているが、午前午後毎日など希望を調整している。	○	○異姓介助では、特に御本人の意思を確認して対応、女性利用者に、御指示を頂けるくらいの対応を心掛けたい。又、本心を見極め、無理のないようにしたい。異姓介助は基本的に行なわない。職員数により、安全が確保出来ない場合は、無理をしないほうが良いと認識。 ○時間帯によっては、職員手薄の為、利用者様の希望や、タイミングに添えず、職員の都合で入浴をしてあげられない事があるのが、非常に残念である。 (特に夜の時間帯)
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	○起床や就寝を原則自由としている。 ○居室は本人の最も落ち着ける部屋にしつらえていただくよう、安全面・衛生面に問題ない限り持ち込み自由としている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	○誕生会やイベントなどに役割を決めて挨拶などをしていただく。	○	○利用者さまの特技をいかし、みんなと一緒に楽しむ。
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	○預かり金規定に基づき、本人の希望でお金を使えるよう支援している。	○	○必要な方には、金庫を購入してもらい、必要最小限で自分にて管理をしてもらう。食材購入時等、支払いの際も、その大、小に関わらず、同行利用者に支払ってもらう。
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	○毎日散歩している。 ○隔日に全員の食材と個人のおやつなどの 買物に行っている。 ○毎月イベント食として、昼の夕食を職員有志と愉しんでいる。	○	○土、日、祝日と休日の雰囲気を味わって頂けるように、少人数で引率者の無理のない程度で、買い物等に出掛ける。
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	○イベント食として、毎月お寿司屋などでの食事を楽しんでいただいている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	○100番通報を使ってもらっている。 ○難聴の方には代理確認している。 ○手続きの書面は解説し取り次いでいる。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	○訪問が頻繁である。	○	○特に、スタッフの対応で感じ方が変わってくると思うので、明るく元気良い対応を心掛け、また来て見たいと思われるようにしたい。
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	○言葉の拘束が起きないように、またベッド柵など虐待とならないよう充分注意している。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	○鍵は唯一門扉を電子ロックにしている。敷地が広くて250坪ほどあり、許される範囲かと考えるが、今後十分に検討していきたい。	○	○日中、門扉はOPENで良いのでは（毎日が無理であれば、土、日、どちらか、或は職員数により）
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	○常にお声かけをして安全を心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	○洗剤の保管場所・管理について 十分気をつけている。	○	○電気製品のコンセントなど、発火の恐れのあるものはリストアップして、定期点検したい。
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	○転倒、誤飲に特に気をつけている。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	○急変や事故時の備えをマニュアル化している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	○毎月1日17時30分から定期的に防火避難訓練を実施している。	○	○備蓄品や、懐中電灯(サーチライト)や、災害用品の準備
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	○家族との話し合いを進めていく。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	○食事量、水分量、顔色、元気あるなしに気をつけている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	○担当を決め、薬情報を一括管理している。	○	○薬に関する勉強会や、本を購入する等、今よりもっと、薬の大切さや重要性に対する意識を高めていく。また、服薬確認を徹底して行ない飲み忘れの無い様に支援する。
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	○献立に積極的にごぼうのメニューを取り入れている。	○	○食材選びに工夫を重ねている。
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	○健康保持に口腔内の清潔の重要性を充分認識している。		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	○:食事・水分の摂取量を常時記録に残し、献立については管理栄養士による献立にて対応。	○	○男と女、身体の大小、食の細さ、病気による制限
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	○保健所の研修を依頼して実施した。	○	○常に手洗いをまめにする。
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	○保健所の研修を依頼して実施した。	○	○調理用具などの除菌や食材は調理済の物を含めて冷蔵庫に保管。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	○ホームを塀とオートロックで閉ざしているが、畑仕事を近隣の方が見て声をかけて下さる事もある。	○	○ボランティア様より、お花を植えて頂き、門から玄関まで設置、フラワーロードを通り、入って頂いている。
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	○屋内の照明を、高齢者に十分な明るさを保ち、百五十坪余の庭は、菜園・果樹・茶および花木を配置して、四季を楽しめる。	○	○落ち着いた広いスペースを大切にして、不必要なものを置かないようにする。
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	○お天気の良い時は誰とは無くテラスに出て日向ぼっこをされたり、畑を見にホームの周りを散歩されている。	○	○1Fの方も2Fリビング等使用し、気分転換にどうか(人数が少ない間)

京都府:グループホームひだまり1階・2008年度

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	○入居される際に、本人様が安心してホームで生活して頂ける様、自宅で使用されていた物を出来るだけ持ち込んでいただく助言をしている。	○	○ソファ等設置して、自分の時間や、友人や、御客様と談笑出来るようにする。(岩本様の居室のように)御家族様が来られても、つい、居眠ってしまいそうな空間。
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	○認知症の方への対応として居室の寒暖を感じ取る機能低下などを考慮し、温度計・湿度計による管理に留意している。	○	○特に、夜間について居室の換気扇をまわして寝ると室温が更に下がるので注意が必要。又、居室と廊下の温度差について差があり過ぎないように調節を要する。 ○一日に一度の空気の入替え。
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	○床をクッションフロアとしている。 ○キッチンを島式にして、三度の食事を買物から後片付けまでみんなでしている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	○今日は何日ですと呼びかけ、質問しない。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	○南に面した庭にはテラスを作り、焼肉など会食したり、体操に使っている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
		○	③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="radio"/>	①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②少しずつ増えている
		<input type="radio"/>	③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、生き生きと働いている	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/>	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

できる限り、散歩に出る。料理は一緒に作る。月1回の外食。お出かけ。